

クラウド・コンピューティングに最適

シンプル化／統一化により効率的なデータセンター運用を支援する 「PRIMERGY CX1000」 プライマジー

クラウドサービスの拡大に伴い、スケールアウトを必要とするデータセンターでは、サーバ台数の増加に伴うコスト増大や設置スペースの効率化等、様々な課題を抱えています。富士通は、装置仕様のシンプル化／統一化とユーザビリティの向上により、効率的なデータセンター運用をサポートする「PRIMERGY CX1000」を発表しました。

新しい冷却方式により消費電力、 設置スペースを大幅に削減

コスト削減、効率的な運用といった数々の課題を抱えるデータセンターに最適なサーバプラットフォームが「PRIMERGY CX1000」です。データセンターにおける単位面積あたりのコンピューティングパワーを最大限に高め、運用コストで大きな割合を占める消費電力や冷却・床面積コストを削減し、コストパフォーマンスに優れたデータセンターの運用を実現するため、装置仕様のシンプル化と統一化に取り組んでいます。

「PRIMERGY CX1000」は、専用のラック及び同一仕様で統一した38のサーバノードを1セットとして提供します。「PRIMERGY CX1000」のサーバノードにおいては、コンポーネントの見直しによる部品数の削減等、装置のシンプル化によって、サーバノード単位で必要となる消費電力とスペースを削減しています。

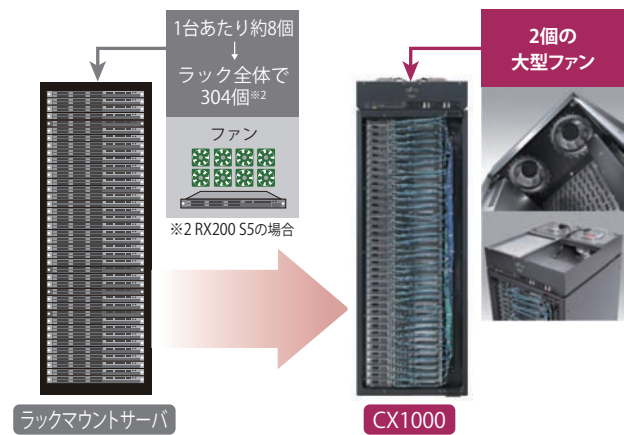
また、部品数の削減や仕様の統一化は、管理工数／トラブル対応工数といった運用コストの低減にもつながると考えます。さらに、ラック前面で全ての作業が可能なフロントアクセス方式の採用やケーブル数の削減、サーバノードの軽量化等により、ユーザビリティの向上を図っています。

今回、新しい冷却方式も特長の一つです。従来、1Uのラックマウントサーバでは、サーバ1台あ

たり8個の冷却ファンを装備しているのに対し、「PRIMERGY CX1000」ではサーバノード毎にファンを搭載せず、ラック上部に搭載した2個の大型ファンにより全体を冷却します。これにより、ラック単位における消費電力の大幅な削減を実現できます。また、この新しい集中冷却方式は前面吸気／上面排気となるため、ラック背面同士をあわせた設置が可能です。従来のラックマウントサーバでは必要だったラック後面のスペースを削減できることから、同じサーバノード数で比較した場合、設置スペースを約40%削減することができます。

■ 集中冷却方式と高効率電源^{*1}により消費電力を従来比13%削減

「PRIMERGY RX 200 S5」×38台と
「PRIMERGY CX1000」×1ラック(38サーバノード)の比較



※1 電源から供給される交流電源を装置内部で
直流電源に変換する際の変換効率が92%

詳しくは ▶▶▶ <http://jp.fujitsu.com/about/journal/products-services/20100401/>

富士通ジャーナルサイトもあわせてチェック!

富士通ジャーナルサイトでは、冊子で紹介した製品の詳しい情報や、冊子ではご紹介しきれないお奨めの製品情報を毎週更新しています。ぜひご覧ください。

富士通ジャーナル プロダクト&サービス

検索

<http://jp.fujitsu.com/about/journal/products-services/>